

# 資料発掘、実測調査・図面作成 Lixilギャラリー作成資料等の再展示会と講演会実施

## 江川三郎八研究会

### 活動の目的

江川三郎八と彼の部下たちが福島・岡山両県庁で設計・現場監督した建築を研究し、江川技師の業績と江川式建築の歴史的・建築文化的価値を顕彰する。得られた研究成果を地域社会に還元し、岡山県民が近代建築を通して岡山県の近代化に貢献した建築家たちの存在を知り、歴史的建築物の文化的価値を十分に理解して、身近な地域文化への造詣を深めることで、地域文化復興へとつなげる活動を行うことを目的としています。

### 活動の内容及び経過

Lixilギャラリー東京での江川展（4/2～5/23）は、緊急事態宣言の為に中止となった（前年度大阪は開催）。全国発信の機会を逃したが、真庭市において、凱旋のギャラリー展（6/13～9/28）と講演会が実施の運びとなり、コロナ禍で多くの行事が中止になる中、ロングランで多くの市民県民の皆さんに楽しんでいただけた。

瀬戸内市在住の歴史的建造物専門家（ヘリテージマネージャー）と連携し、市内にある旧医院の所有者から聞き取り調査を行った。その後、塗装工事の足場が設置された情報を得て、施工会社の協力で外部の実測が叶った。その成果を、瀬戸内市中央公民館で展示発表した（3/16～3/28）。

岡山市操山山頂の三敷神社跡にて、基礎石の痕跡を調査、実測図を作成した。また、記録資料館等での調査は各自で行い、SNSを使って情報交換をしている。

新聞報道や講演会を通して、江川の部下であった元県庁職員の子孫からの連絡が2件あり、資料の提供、聞き取り調査を行った。

### 活動の成果・効果

昨年度のLixilギャラリー大阪での江川展を機に日本経済新聞の取材を受け、30年に及ぶ江川研究について全国紙の文化欄に紹介された。また、江川の出身地福島県では、5/16より5回にわたり、福島民報紙に「ふくしま人」のタイトルで、江川が特集され、地元でも知られる人となった。

部下の子孫から、当時の写真、貴重な図面や資料をお借りし、デジタル化することができた。また、その資料等により、江川の元で部下が設計した建物や建築構造について新たな発見があった。

金光学園高校では、江川が設計した明治37年竣工の記念講堂を身近な教材としてとりあげ、生徒たちが魅力について英語で紹介するパンフレットを完成させている。

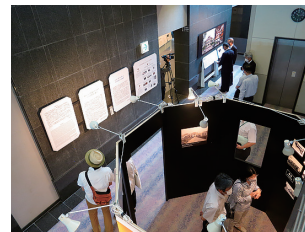
講演会、展示会を通して地域の方が江川式建築に興味、関心をよせてくださり、助成金で製作させていただいてい



講演会



実測調査



Lixilギャラリー展 in 真庭



Lixilギャラリー展 in 真庭

るパンフレットは大好評である。文化庁の担当者からも送付を依頼された。

津山中山神社の拝殿、幣殿が江川式建築として国登録有形文化財として答申された。

### 今後の課題と問題点

コロナ禍の影響で事実上展示会、講演会等は研究会単独で開催するには非常に困難な状況にあるが、公民館講座等の講演依頼があれば開催可能である。また、昨年の東京Lixilギャラリーでの展示会を機会に福島の江川研究者との交流会を東京で計画していたが、中止となってしまった。コロナ禍が治まらなると活動は難しい状況にある。福島の江川研究者の来岡も延び延びになっている。

江川の部下の子孫家族の資料により今までの資料に訂正箇所が出てきている。嬉しいことである。

昨年度より個人所有の江川式建築に関わっているが、調査活動がなかなか難しい。なかには、30年以上も待った建物もある。実測調査となれば、塗装等で足場が架けられなければ非常に困難である。また、所有者と工事施工業者の理解も必要である。なんの調査も行われずに解体される建物をなくしたい。

収集した資料の有効的活用方法、展示パネル等の保管場所等の問題。また、展示パネルの常時展示場所はないだろうか。

- 代表者：難波好幸 ●所在地：真庭市久世
- E-MAIL：toshizou@leaf.ocn.ne.jp
- URL：https://www.facebook.com/egawa368/
- 設立年：2013年 ●メンバー数：9名